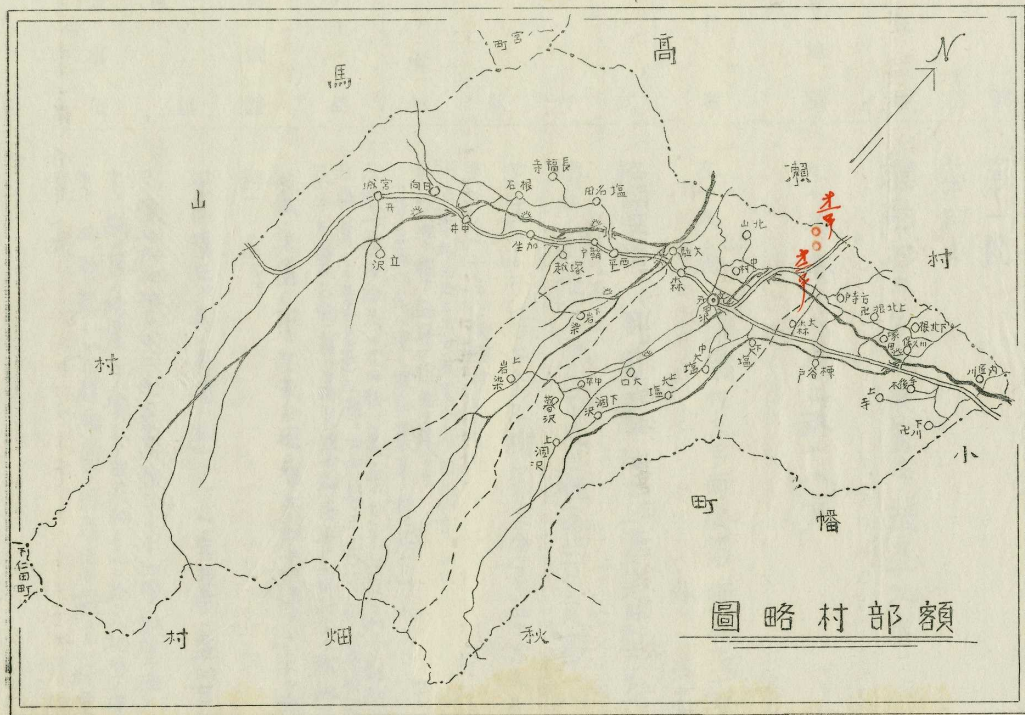


昭和十年八月調

古墳調査臺帳

北甘樂市額部村町

古墳分佈圖



額部村略圖

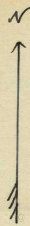
古墳調査票

北甘樂郡

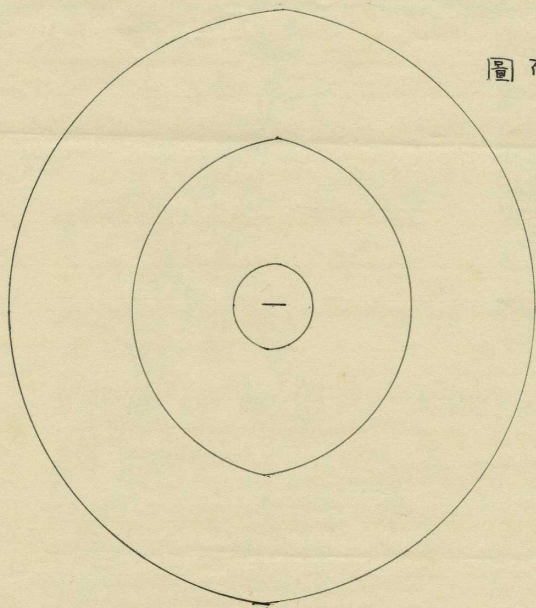
額部 四村

番號	名稱	所在地	地目地積	所有者	型式	大サ	現狀	發掘ノ有無	出土品	由來徵證	管理ノ有無	參考事項
第一號	茶臼山	額部村大字南後箇字北九十九番	九十九番 八段九畝十八步		橢圓形 周圍ニ隍陞ナシ墳丘六元田形スルモノナラン	墳丘ノ長徑東西九十二尺短徑南北百三十二尺高十八尺	芝生ニシテ若干ノ松樹アリ。(今ヨリ二十余年前迄芝生ノミニシテ後植付シタルモノナリ)	明治三十七年三月三日該里人澤田茂市、岡田近吉、藤田藤作三氏、偶此ノ地ヲ掘リ諸種ノ古物ヲ獲タリ	古鏡一面(徑約尺二寸四角、裏面ニモリリノ。ほうわうノ刻餘アリト石輪五月ミラ帯ヒタル石)三箇。曲玉。管玉。古刀。鐵。墓埴輪等古中古鏡及石輪一箇ハ當時官印有御殿寮ノ御品トテ獻納セリト(澤田藤作氏ハ現ニ健在農事ニ従ヒ居ル)	別紙記載ノ如キ記事が現ニ墳丘ノ中央ニ建テラレタル碑ニ刻サレ居ル。	現在墳丘及其ノ周圍ハ松山トナル(佐居理直翁ハ土地所有者)	ヲ墳丘所在地ハ茶臼山ノ最髙部ニテリテ四時ノ眺望極メテ絶佳ナリ、調査ノ結果、コノ墳丘ノ田采明カクニ於テハ相當ノ保護法ヲ加、現形ヲ損セザル様相當ノ保存法ヲ講スルハ肝要ノトナランカ

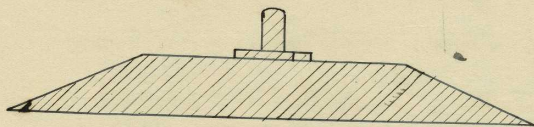
擔當調査員
職氏名印



圖面平



圖面斷



$\frac{1}{200}$

古墳調査票

北井樂 郡
額部 町村

番 號	名 稱	所 在 地	地 目 地 積	所 有 者	型 式	大 小	現 狀	發 掘 ノ 有 無	出 土 品	由 來 徵 證	管 理 ノ 有 無	參 考 事 項
第二號	ナ シ	額部村大字南後箇字北 甲百五番	甲百五番 畑壹畝十九步		楕円形 周圍ニ隄趾ナシ	墳丘ノ長徑(東西)六三三尺、短徑(南北)四三三尺、高サ十三尺余	周鑿ケレ知ナリ、作物遺存セラル、東・南・西部ノ三方墳丘ノ基部原形ト思ハル、部分認めラレ、モ、上部ハ東南面傾斜、畑地ニシテ北部モ亦稍急傾斜、北面傾斜知トナル	明治三十七年頃掘コハカレタモノ、如シ一石槨ノ廣サハ斷ル廣大ニテ大石板ニテ圍マレタリ、コト、内部ト數人安坐シ得ル空アリ、天井約七尺アリトハ、東南ニアリテ石板ニテ箱如ク入ル程度ナリ、	詳カチラズ、現ニ畑ノ土壌中ニ埴輪土器等、破片ノ如キモノアルノシ、	詳カナラス	耕地トシテ管理サル	埴輪ノ破片等アルコトヨリ古墳ト思ハルノミ 石槨ノ内部アマリニ廣カリレトコト故、或ハ古代穴居ノ跡アリトカ、其ノ邊 詳カナズ

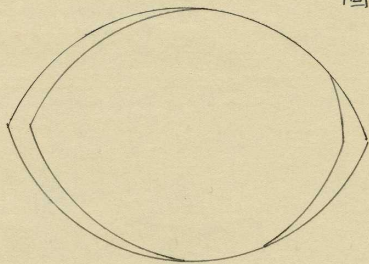
(分 出 提 ~ 縣)

(査 調 月 八 年 十 和 昭)

擔當調査員
職氏名印



圖面平.



圖面斷



$\frac{1}{200}$

茶臼山 碑文寫

上野國北甘樂郡額部村大字南後箇字北山に、茶臼山と稱する古塚あり。往古より靈地として、人々之を道すべし來りしも、其の何の故なるかを詳にせざりしが、明治三十七年三月三十日、該里人澤田茂市、岡田近吉、澤田藤作の三氏、偶此地を掘りて、諸種の古物を獲たるにより、初めて貴重品を埋め置きたる所なるを明かにせり。發見品中、古鏡一面と、石輪一箇とは、宮内省御陵寮の御用品となり、他は悉皆澤田吉五郎の有に歸せり。その品目を今挙ぐれば、曲玉、管玉、石輪刀、鍬、玉器破片等にして澤田は、その一部を東京帝國大學人類學教室に獻納せられたり。今こ此等發見の性質と、其の發見地の状態とを併せ考ふるに、此の古塚は、正しく高貴の人の墳墓にして、その造営の時代、今を距る千數百年前と推測せらる。こゝに葬られたる人の誰なるかに至りては容易に考定すべきにあらず。余白山と呼ぶ所以は、塚の形状より出でたるのみ。古墳と呼ぶにこの名を以てすること、其の例に乏しからず。決して研究の端緒とは認むべからざるなり。今やこの地方の同志諸氏、相議して古物發見の事を後に傳へむがため、碑を建てむとし、余をして其の文を撰ばしむ。余未だ精査を遂げたるに非ずといへども、此の挙を賛するが故に、喜びてこれを諾し、諸氏に代りて、事實を、述ぶ。且つ、少しく見る所を附記すること尚り。

明治三十一年三月 東京帝國大學理料大學教授 坪井正五郎撰